

平成 31 年度（2019 年度）学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	75	学校名	県立下館第一高等学校					課程	全日制	学校長名	川松 秀夫					
教 頭 名	山田 伸一				木村 厚夫						事務室長名	飯村 好明				
教職員数	教諭	48	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	4	技術職員等	3	計	67
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	144	128	158	118	130	148			432	394	21				
	科															
科																

2 目指す学校像

文武両道の教育方針の下、豊かな人間性を培い、深い知性とたくましい心身を養うとともに、自主自立の精神を涵養し、グローバルな視野を備え、国際社会や地域社会の発展に貢献するグローバル(Global + Local)人材を育成する学校づくりを行う。

- 規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養に努め、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性の育成を図る学校
- 一人ひとりの生徒の実態を踏まえた、柔軟かつ多様な教科指導と適切な進路指導により、確かな学力の定着と生徒の自己実現を図る学校
- 自主自立の精神を身につけ、自ら学ぶ意欲と力を育てる学校
- 確かな知識を身につけ、国際社会や地域の発展に貢献できる人材の育成を図る学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
教科指導	主体的・対話的で深い学びの実現を目指してアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に取り組んでいる。また、電子黒板等のICT機器を活用した授業に取り組んでいる。その結果、積極的に授業に参加する生徒が多くなった。ただし、学力の基盤となる家庭学習の時間が不足している。また、教員の指示に素直に従う生徒は多いが、自ら課題を発見し解決しようとする意欲が十分でない。	主体的・対話的で深い学びを取り入れた教授・学習法を学力向上につなげる指導を教科で研究する必要がある。自学自習ができ、自らの進路実現のため計画的に学習できる生徒の育成が課題である。
生徒指導	挨拶や服装、マナーなどの基本的な生活習慣は多くの生徒が身に付いている。学習のつまづきや人間関係など様々な不安を抱え、心のケアを必要とする生徒がいる。	学校と家庭が連携し、スマホの正しい使い方などを含め、生徒全員が基本的な生活習慣を身に付けるよう指導する必要がある。心の問題を抱える生徒に対しては、スクールカウンセラーや医療機関と連携し、速やかに対応する必要がある。

進路指導	ほぼ全員が大学進学を希望している。国公立大学合格者は 90 名を越えているが、難関国公立大学の合格者数が減少している。進学のための時間がかり、本格的な学習に取り組む時期が遅れがちで、自己の能力を十分に発揮していない生徒も見られる。	低学年からの進路意識の高揚に努め、将来を見据えた体系的な 3 年間の進路指導を充実させるとともに、生徒の能力を伸ばす組織的な指導法の確立が課題である。
特別活動	七曜祭（文化祭）・館力祭（体育祭）・クラスマッチなどの学校行事は生徒主体で運営されている。ホームルーム活動や委員会活動、部活動に積極的に取り組む生徒が多い。	ホームルーム活動や委員会活動、部活動に積極的に取り組むよう引き続き生徒を指導し、生徒の自主性やコミュニケーション力を育てる。

4 中期的目標

1	生徒自らの意欲的な学習を促すため、進路希望に応じた教育課程を編成するとともに、教科指導に関する研修を充実させ、授業内容の改善を図る。 《数値目標：難関国公立大学合格 30 名(旧帝大, 筑波大, 医学部医学科), 難関私大 20 名(早稲田, 慶応, 上智)》
2	心の教育の充実を図るため、ボランティアに関わる研修や諸活動などを通して、人権教育や道徳教育を積極的に推進すると共に、基本的生活習慣の確立を図る。 《数値目標：心的要因による転退学者 0 名, 3 年間皆勤者 100 名》
3	生徒が生き生きとした学校生活を送れるよう、学校行事や部活動の充実に積極的に取り組み、愛校心を涵養する。 《数値目標：部活動加入率 90%, 県高校総体 男女共 10 位以内》
4	社会のグローバル化に対応できる人材を育成するため、姉妹校との国際交流や語学研修, 海外留学等に参加する生徒を強力に支援する。 《数値目標：国際交流参加生徒数 40 名, 海外留學生徒数 10 名》
5	中高一貫教育校の設置及び経営に全力を注ぎ、新たな魅力ある学校づくりを推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
確かな学力の定着と進路指導の充実	<p>①グローバル人材の育成を目指し、30 年度より新たに始まった「紫西グローバルチャレンジⅡ事業」を推進する。台湾への修学旅行, 台湾・オーストラリアの高校・大学との姉妹校提携や連携協定を活用した文化交流・語学研修により、国際社会や地域社会で活躍できる生徒を育てる。</p> <p>②相互授業参観や職員研修会, 中学校の授業参観, 中高一貫校先進校視察, 予備校等での授業研修を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組み、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。</p> <p>③日々の授業を大切にするとともに、土曜特別講座, 夏季特別講座, 春季特別講座, 平常課外, AC 活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。</p> <p>④国公立大学合格 100 名以上, 難関国公立大学合格 20 名以上, 難関私大合格 15 名以上を目指す。</p>

<p>規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養</p>	<p>⑤学校内はもちろん、校外においても元気な挨拶を励行する。</p> <p>⑥自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。</p> <p>⑦カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、心的理由での転退学者数を前年比で減少させる。</p> <p>⑧基本的生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者 140 名以上を目指す。</p> <p>⑨規範意識の高揚を図るとともに、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者 0 を目指す。</p> <p>⑩場を清め、心を清める活動を推進し、清潔な学習環境で落ち着いた雰囲気での学習ができる場の形成に努める。</p>
<p>特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上</p>	<p>⑪特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、より良い人間関係を構築する。</p> <p>⑫部活動は、学業との両立を図り、密度の高い練習を通じて、全国大会など県外大会出場を目指す。（1年生の部活動加入率 90%以上を目指す。）</p> <p>⑬学校行事の改善充実を図り、新たな伝統の継承に努める。</p>
<p>広報活動の推進と地域との連携</p>	<p>⑭ホームページを充実させるとともに、学校案内等を刷新し積極的な情報発信を行い、「開かれた学校づくり」に努める。</p> <p>⑮学校説明会の充実を努めるとともに、中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。</p> <p>⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。</p> <p>⑰進路だよりや学年通信などの紙媒体、メール配信やホームページなどの電子媒体を活用するとともに、進路講演会・学年PTA・PTA支部学習会等あらゆる機会を活用して、生徒・保護者に進路や学習に関する情報を提供し、連携を深める。</p>
<p>いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立</p>	<p>⑱道徳教育や教育相談等を充実させ、いじめの未然防止と早期発見、早期解消に努める。</p>
<p>中高一貫教育校開校に向けての準備</p>	<p>⑲来年度の中高一貫教育校開校に向けて、全職員の共通理解を含め万全の準備を進める。</p>